

横浜市立大学 地域貢献通信

市民に親しまれる大学でありたい

横浜市立大学は、横浜とともに歩む大学として、研究・教育・診療の力で市民や地域社会に貢献します。この通信では、市大が取り組む様々な地域連携活動をご紹介します。



地域とともに進める研究 地域実践研究

未来につなぐ持続可能な街を目指した「ファンづくり」

国際商学部、国際教養学部から4つの分野の異なる研究室の学生23名と教員4名が、それぞれの研究分野を活かし、横浜中華街での持続可能な街づくりを目指した「ファンづくり」に取り組んでいます。



令和4年度の取り組みの一つとして、「打包（ダバオ）文化の普及」に関し数店舗様にご協力いただき、実証実験をしています。

日本では出された食べ物を残すのは失礼に当たりますが、中国のマナーはそれとは真逆で、招待された際に、出された料理すべてを食べきってはいけません。そのため、余った料理は持ち帰るのが普通で、「打包」または「包して」と言えば店員さんが容器に詰めてくれます。横浜中華街で食べ残した料理を持ち帰りできるお店にPOPを設置するなど、食品ロス削減にもつながる「打包」の情報発信に、学生たちで取り組みました。

● 研究室と研究テーマ

- 国際商学部 柴田典子ゼミ（研究代表） <マーケティング>
- 国際教養学部 有馬貴之ゼミ <観光政策>
- 国際教養学部 陳礼美ゼミ <社会福祉>
- 国際商学部 黒木淳ゼミ <公会計>

[ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト](#)

[横浜中華街発展会協同組合](#)

横浜 SDGs 漫才グランプリ ～インクルーシブな社会のために～

国際教養学部 影山摩子弥教授のゼミ学生と障がい者がコンビを組んで、漫才コンテストが開催されました。コンテストに向けて漫才ネタを考えたり、準備を通してお互いが深く関ることで、健常者の障がい者に対する偏見が軽減され、インクルーシブな社会の実体的基盤を作ることを目指しています。

吉本興行所属のお笑い芸人「フランポネ」さんや藤田ゆみさんにご協力いただき、それぞれの個性あふれる漫才ネタで、会場は笑いに包まれました。

[WEB記事はこちら](#)



学生の活躍



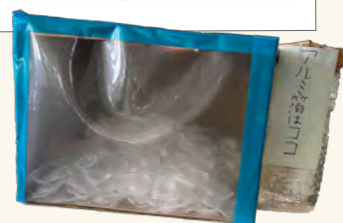
海の豊かさを守ろう！使い捨てコンタクトレンズ容器を回収しています。

YCU 学生が立ち上げた海洋プラスチック問題・環境問題を考えるボランティア団体「Clover (シーラバー)」は、株式会社 SEED が実施する「BLUE SEED PROJECT」との連携により、学内で使い捨てコンタクトレンズの空容器回収を始めました。

R4 年 10 月から 12 月までで、約 7000 個を回収しました。他にも海の清掃活動など、「海の豊かさを守る」ための取り組みを続けていきます。



もっと知りたい！
[Twitterはこちら](#)



金沢産業振興センター PIA ビジネスグランプリで最優秀賞に選ばれました

横浜市金沢区にある横浜市金沢産業振興センターで実施された PIA ビジネスグランプリ 2022 で、国際総合科学部（現 国際商学部）4 年の関芳実さん、菊原美里さんが在学中に立ち上げた「株式会社 StockBase」が最優秀賞に選ばれました。

[WEB記事はこちら](#)